



富士のさと おはなし広場と自然遊び塾

令和4年10月～令和5年2月

○趣旨

幼児期における自然体験や本に触れる体験の機会を増やし、自然のもので遊んだり、さまざまな本に触れたりすることを通して、豊かな人間性を築く基礎を培うとともに、体験活動の重要性の普及と当交流の家の周知を図る。

○実施した御殿場市内の幼稚園（7園）・保育園（12園）・こども園（3園）

竈幼稚園、玉穂幼稚園、森之腰幼稚園、富士岡幼稚園、御殿場幼稚園、玉穂第一保育園、双葉保育園、高根第二保育園、富岳保育園、東保育園、印野こども園、原里第二保育園、みらい保育園、西保育園、高根第一保育園、玉穂第二保育園、原里西幼稚園、高根学園保育所、神山認定こども園、原里幼稚園、すみれこども園、原里第一保育園

※当初、玉穂第一保育園は交流の家にて活動予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、他園と同様に交流の家職員による訪問へ変更して行った。

○活動の流れ

1つの活動を基本30分間（移動等含め）とし、3つの活動をローテーションして実施した。

（下記は基本的なタイムスケジュール、園によっては年長のみに対応）

	開始～0:25（25分間）	移動（5分間）	0:30～0:55（25分間）	移動（5分間）	1:00～1:30（30分間）
3歳児	削り華（かんなくず）を使った活動（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）
4歳児	身体を動かす活動（室外）		すべらっぷづくり（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）
5歳児	絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）		釘打ち（室内）

○内容（活動の様子）

（1）絵本の読み聞かせ〔運営：御殿場市立図書館ボランティア〕

図書館ボランティアが年齢に応じて自然に関する内容の絵本を選定し、読み聞かせを行った。園児たちに本の魅力を伝え、興味・関心を持たせるために、大型絵本を用いたり、話し方や本の持ち方を変える工夫がなされていた。普段とは違う読み聞かせにより、絵本の世界にのめり込み、目を輝かせながら話に耳を傾けていた。

【読み聞かせ】



（2）自然のものを使った創作活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

主に木を用いて、園児の発達段階に応じた道具や作業工程を取り入れた創作活動を行った。今年度は、5歳児の全員が「釘打ち」に挑戦した。釘を打つ際、怪我をしないために補助具を使用し、安全に作業ができるようにした。作業後は色々な色の輪ゴムを使い、釘に輪ゴムをかけることで、様々な形を創造する遊びへと発展した。4歳児の「すべらっぷづくり」は、紙やすりを使って木の表面をつるつるに磨き、最後にストラップの紐を通した。3歳児の「削り華（かんなくず）を使った遊び」は、削り華に触れ、木の感触や香りを感じた。動物の絵が写し出されたシートを使い、毛並みを削り華で表現する創作活動を行った。活動の最後には、年輪（木の年齢）や木で作られている物の話をし、身の周りにあるものや自然を大切にしたい気持ちを育むことを伝えた。

【削り華の創作活動】



【すべらっぷづくり】



【釘打ち】



(3) 体を動かす活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

今年度は各園で継続的な遊びへと繋がるように、ミニフラフープを使用した「フラフープじゃんけん」を実施した。子供の体力低下が危惧される中、簡単な運動から体を動かす楽しさを感じ、挑戦する心を育むことを意識し、活動中は前向きな声掛けを行った。準備運動の後、列に分かれ、フラフープの中に両足ジャンプを繰り返した。色々な種類のジャンプを一生懸命に跳び、最後はジャンプにじゃんけんを加えて、列ごと競い合った。園児の発達段階に応じて、ルールは変えつつ、全員が楽しめる工夫を施した。園児たちからは、「楽しかった。もっとやりたい!」「最初はちょっと難しかったけど、できるようになったよ!」と、前向きな言葉が数多く聞かれた。また、仲間を励ましたり思いやりする姿も多く見られた。こうした積極的に活動する園児や、普段とは違った姿を見せる園児を見て、成長を実感した園の先生方も多数いた。単に体を動かす活動をするだけでなく、丈夫な体を作るためには、運動の他にも「早寝・早起き・朝ごはん」といった規則正しい生活習慣が大切であることも活動の前後に繰り返し園児に伝えた。

【準備運動】

【フラフープジャンプ】

【フラフープじゃんけん】



○実施における留意事項

昨年度の反省から、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、できる限りの活動を実施していく中で、より一層の効率化を図った。全ての園との事前打ち合わせを訪問から電話連絡とし、簡素化したものの、重要な連絡は確実に行うことで円滑な運営に繋がった。今年度は交流の家を利用する団体が増え、通常業務も忙しくなる中ではあったが、事前研修を充実させ、少ない人数で訪問しても対応できるようにした。安全、安心な事業を実施するため、交流の家としても感染症対策等を徹底した。また、地域に根差した実りある事業とするために、図書館ボランティアとの連携を深めながら進めていった。

《園からの声》

- おはなし広場では、絵本に親しみ興味を持って聞いている姿が見られました。「もりのかくれんぼう」の絵本では夢中になって隠れている動物を探していました。
- 図書館ボランティアの方の読む姿勢がとても美しく、子供たちのために部屋の光の加減なども考えてくださり、1冊1冊を大切に読む姿が勉強になりました。
- 外遊びでは、友達がフープの中を上手にジャンプしている姿を見て「すごい!」と褒めたり、「頑張れ!」と応援したりする姿を見られて良かったです。
- フープ1つでも色々な遊びができて、子供たちが楽しそうに参加して、いい笑顔が見られました。ジャンプが苦手な子やじゃんけんのルールなども、やっていくうちに理解が深まったようでした。
- 削り華に初めて触った子もいましたが、興味津々に匂いを嗅いだり、触ったりと楽しめて良かったです。
- 初めての釘打ちでしたが、用具や大きさ等、丁度よく、輪ゴムで変化をつけられることも良かったです。1度で終わらず、何度も経験できるように園でも取り入れていきたいと思いました。
- 釘打ちでは一人ひとりの様子を見ていただき、安全に楽しくできました。釘の高さを一定にする補助具など大変参考になりました。

《成果と課題》

- コロナ禍のために園外活動が制限されている中、園児たちに自然を取り入れた体験活動の場は大変貴重であるという声を多くの園からいただいた。子供たちの成長において、本事業の役割は大きく、大変意義のあるものとなった。また、各園が感染予防対策を徹底していただいたおかげで、昨年度実施できなかった園にも訪問することができ、多くの園児たちに体験活動の場を提供することに繋がった。
- 今年度9年目を迎える事業ということで、地域に根差した活動となっており、今後も継続していくことが求められている。事業の精選を検討する中で、活動の意義を踏まえ、効率的な運営が必要である。
- 連携先である図書館ボランティアの方々と本事業に限らず、様々な場面で連携していく。さらに、他団体と連携し、各事業で幅のある体験活動に繋げていく。